



国際ロータリー第2610地区 南砺ロータリークラブ
クラブ会報

なんと

NO. 2084



URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail office@nanto-rc.jp

例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/金沢信用金庫福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎0763-53-1333 FAX 53-1334

撮影
写真同好会
細川誠三会員



梨の木
農園きむらにて

第2144回例会 平成23年9月20日(火)雨

- ◆点鐘 12:30 司会 税光信作 SAA
◆ソング「それこそロータリー」
◆ゲスト ㈱日本抵抗器製作所 代表取締役社長 木村 準氏
ラオス留学生メッカシン・スカンニャー 学習院大学在学
メッカシン・ナッターリー 国立大学在学
南砺ラオス会 高橋氏

◆会長の時間 松井洋司会長

彼岸に入り、季節も秋へと変わろうとしています。

本日は日本抵抗器製作所、社長の木村 準(ひとし)様をゲストスピーカーにお迎えし、日常耳にする事のできない最先端の話題で、卓話をいただけるようです。期待をもって拝聴致したいと思っております。

先日9/14(水)にRCの会員増強を期して、入会候補者との懇話会が、新世代、RAの皆様の企画で開催されました。前例のない、有意義な一時(ひととき)を持って、増強につながる事を期待したいと思っております。

さて、皆様に重要な報告をさせていただきます。先にも周知していますように、次年度2012-13年度に、当クラブは、2610地区富山第4分区分のガバナー補佐を選出する当番クラブとなっています。次年度は、2610地区は中尾哲雄インテック代表がガバナーを、そしてRI会長は日本人の田中作次様がつとめられるという大きく期待のできる変化の年度かと思われま。補佐選出については数名の方々に相談、協力を得、御本人とも数回にわたり話し合いを致しました。結果!!会員の皆様の全面的な御協力を条件に受諾を了承いただきました。「岡部一輝」会員です。改めて深く御礼を申し上げます。ありがとう御座居ます。大変多忙な立場でありながら、「これも奉仕のひとつ」「ロータリーにNOは無い」と力強く前向きな御理解をいただきました。岡部会員よりコメントを戴きたいと思っております。

◆幹事報告 吉田 勉幹事

- ①米山奨学会より8月の寄付金傾向のご案内
②井波庄川、高岡、高岡万葉RCより例会変更のご案内
③小矢部中RCより会報の拝受

◆出席報告 古瀬喜八郎委員長

会員数	9月20日出席率	9月6日の修正
52 (免除1)	78.43% (欠11)	88.23% (欠7メーク1)

メーキャップ:木村伊徳君

◆2012-13富山第4分区分ガバナー補佐受諾挨拶 岡部一輝君



ガバナー補佐を清水の舞台から飛び降りるつもりで受けさせていただきました。ロータリーにはNOが無いので決心致しました。これからも勉強をいたしますが、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

◆南砺ラオス会 メッカシン姉妹、高橋氏

南砺ラオス会は55名の会員で来年第8次の募集をいたしておりますのでよろしくお願い致します。



◆委員会報告

○親睦活動 木村伊徳委員長
10/18 どぶろく祭り出欠をよろしく。
12時 例会 12:45福光駅前出発 13時 城端駅前出発

◆ニコニコBOX

丹羽武委員長

- 松井君 急に秋到来です。木村社長ようこそ南砺RCへ。
荒井君、片山浩君、中田裕君/
ゲスト木村社長様をお迎えて。
澤田君、川田君/
木村準さんの卓話を楽しみにしております。
岡部君、宮川君/ 卓話に木村社長様をお迎えて。どの様なお話か楽しみです。
高田君 木村さんようこそおいで下さいました。
古軸君 木村準社長様をお迎えて。議会議中のため早退します。9/23の野球よろしくお祈りします。
藤田君 17、18日のむぎや祭。前日は小雨、2日目は猛暑の日でしたが、大勢の人でにぎわいました。
松本敏君 世界各国の災害支援で台湾国が一番多いそうです。その台南市名誉市民に石川県の元県議会議長、長井賢誓(けんせい)氏が受理され、祝賀会に昨日出席しました。
古瀬君 先週、銀行のコンペでロイヤル18番でイーグルが出ました。おまけに優勝してしまいました。もう一つおまけに高つきました。
河合君 本日より秋の彼岸週間に入ります。別院では9月22日、23日の両日、彼岸会法要を勤めます。縁あらば足を向けて下さい。
三吉君 3日前は35℃、ランニングシャツ。今日は15℃、背広。
山田英君 今年のヒョウタン作りは、ジャンボ9個出来、大成功。すっかりすずしくなりましたね。
木勢君 暑さもようやく終わりです。
山田勉君 早退します。

本日のプログラム 9月27日(火) 第2145回

米山記念奨学会情報 米山奨学生 祁婧雅(キセガ)君
委員長 森 啓一君 担当

次回の予定 10月4日(火) 第2146回

環境保護研修会(例会変更) つくばね森林公園11:30
~食事、12:30~卓話 社会奉仕委員長 高田喜一君担当



〈アメリカは何故全力を挙げて日本を助けたのか〉

- 2011年3月11日、三陸沖で大地震が発生し、巨大な津波による災害が明らかになると同時に、太平洋のアメリカ軍は最大限の警戒態勢に入った。ハワイのヒッカム基地に作られている太平洋戦略センターでは、一階と地下室に並べられた数百台のコンピュータが太平洋地域のあらゆる空軍基地に直結されて、データが往復し始めた。
- 出動命令を受けた米海軍空母ロナルド・レーガンと13隻の艦隊は2日後の3月13日には仙台沖に到着し、即座に救援活動を開始した。
- 空母ロナルド・レーガンのタスクフォースが開始したのは、救援活動だけではなく、仙台沖に到着すると同時に、艦載機スーパーホーネットの出撃体制を整え、日本列島北部、北朝鮮から中国、ロシアにかけての軍事防衛体制をすばやく整えた。
- 3月21日、日本のマスコミは米空母が横須賀基地を出港するのを報道した。マスコミの中には、「福島原発の最悪の事態を避けて空母が日本を離れた」と報道したのもいた。この報道を聞いた多くの日本人は「救援活動を行っていた空母が日本を離れた」と錯覚した。実は日本を離れたのは空母ロナルド・レーガンではなかった。もう一隻の空母ジョージ・ワシントンだった。実は日本周辺は空母2隻体制となっていたのだった。
- 空母ジョージ・ワシントンとその艦隊は決して福島原発を避けて日本を離れたのではなかった。実は東シナ海に向かったのだった。艦隊は東シナ海、長崎沖、尖閣列島近くで、大規模な軍事演習を開始した。
- 二つの機動艦隊が北は仙台湾、西は長崎沖で実戦に近い展開をとったのだった。
- 米軍のこのような動きは中国軍の動きを警戒してのものだった。その背景には、中国軍の新しい衛星システムと、ミサイル攻撃態勢の構築がある。



米海軍空母ロナルド・レーガン



空母ジョージ・ワシントン

〈日本周辺が大きく変わった〉

- 中国は指導者の交代を控え、国内政治状況がめまぐるしく変化してきている。中東のジャスミン革命の影響で、民主化要求も潜在的な不安定要素になっている。また人民解放軍の影響力の増大も注目すべきである。
- 北朝鮮は後継者の実権掌握過程に入っているが、急速な交代で混乱は避けられない。そのことに関連あるのか、相変わらずの瀬戸際外交で、哨戒艦撃沈、延坪島砲撃について新たな核実験が懸念されている。
- なんとといっても日本周辺が一番大きな出来事は中国人民解放軍の軍事力の増大だ。J20ステルス戦闘機が試験飛行し、空母が試験航行して、日本のマスコミが報道すれば、尖閣事件以来高揚している日本人のナショナリズムと危機感は揺さぶられる。しかし国際政治は冷静に対応しないと道を間違える。結論から言えば、中国の軍備は現時点でいえば、そんなに危険なものではない。ただし核ミサイルは話が違う。



ミサイルDF21D

- 中国は南シナ海から東シナ海、それに西太平洋に至る地域を監視するためのスパイ衛星を多数打ち上げ、同時に通信衛星を打ち上げた。これにより中国は様々な新しい軍事行動を行う能力を持った。
- このような衛星システムの構築と同時に、衛星システムを利用して攻撃するミサイルDF21Dを多数東シナ海沿岸に実戦配備し、更にDF16と呼ばれる最新型の攻撃ミサイルも配備し始めている。これらのミサイルは、グアムも含めアジア各地を正確に攻撃する能力をもっている。勿論東京も射程にはいり、中国は日本をミサイル攻撃する完全な能力を持ったことになる。その数は数百発と言われている。

(以上、配布資料より)

◆卓話者紹介

会員 荒井 進君

航空自衛隊の次期主力か

大詰めを迎えている航空自衛隊のF X (次期主力戦闘機) 選定で、本命と目されているのが米国ロッキード・マーチン社のF 35ライトニングII戦闘機だ。航空自衛隊は当初、米空軍の最新鋭戦闘機F 22の導入を目指していたが、米国側が軍事機密の流出などを理由に挙げ、輸出に難色を示していた。オバマ政権の誕生でF 22の生産自体がストップすることになり、F Xとして航空自衛隊が採用できる可能性はなくなった。このため、F 22と同様に、レーダーに捕捉されにくいステルス性能を持つF 35戦闘機に注目が集まっている。



F 35

F 35は米国を中心に英国、カナダ、イタリア、オランダ、トルコなども参加して共同開発が進められている次世代型戦闘機で、要撃任務だけでなく、対地攻撃や偵察、電子攻撃など多彩なミッションに対応が可能とされている。F X選定でライバルとなるのは、同じ米国製のF A 18スーパーホーネットの改良型、英独伊スペインの共同開発によるユーロファイター・タイフーンなどだが、特に中国が開発中のステルス能力を持つ第5世代戦闘機に対抗するには、F 35クラスの性能が必要だとされている。(ウイキペディアより)

(今回の会報担当 片山浩一)